

令和8年度 3年 年間指導計画

学年の重点項目		社会道徳上の諸問題に対する認識を深め、地域社会の一員としての自覚を持ち、伝統の継承と文化の創造を育みながら国際社会の一員として望まれる人について考える機会とする。			
月	教材名 「主題名」 【内容項目】	配当 時数	ねらい	評価のポイント	他教科・特別活動 などとの関連
4月	1 自分の思い・相手の思い 「寛容の心をもって、異質な他者とも共生しよう」 【B 相互理解、寛容】	1	絵本『キラキラ』を通して、冷静さを失うと思ひこみから判断して取り返しがつかないことをしてしまうおそれがあることに気づき、相互理解を進めて相手を受け入れていこうとする道徳的判断力を高める。	【多面的・多角的に考える】 キルがとった行動に対するその行動の是非や難しさを踏まえ、なぜキルとキラキラでは相互理解ができたのかと、その理由を多面的・多角的に考えている。 【自分ごととして考える】 自分の経験を通して、相互理解が十分でなかったできごとなどを振り返りながら、本時の学びと関連づけている。	美術
	2 藤井聡太の学び方 「自ら進化できる人」 【A 向上心、個性の伸長】	1	杉本さんの藤井さんへの接し方や藤井さんの学ぶ姿勢を考えることを通して、自ら考え学ぶことができる人が進化できる人であることに気づき、自ら進化できる人になるために身につけたい力は何かを考え、実行しようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 他者の意見を聞き、自ら進化できる人とそうでない人の特徴や違いについて新たな考えを見つけている。 【自分ごととして考える】 杉本さんの接し方や藤井さんの学び方を知り、自ら進化できる人になりたいという気持ちをもつとともに、そのために自分に必要な力は何かを考えている。	特別活動
	3 僕は友達を裏切ったのか？ 「真の友情」 【B 友情、信頼】	1	部活動について「僕」と友達の間で起きたことの意味を考えることを通して、個性や価値観の相違を超えた友情の尊さについて考え、よりよい友情を培っていこうとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 友情について、登場人物の心情を理解しながら、同じ行動でも、見方や基準によって判断が分かれることがあり、それを認めることの大切さを考えている。 【自分ごととして考える】 真の友情を培っていくうえで自分にとって何が必要なか、何を補っていかなければならないかを、自らの経験と重ねて考えを深めていくことで自分ごととして捉えている。	特別活動
5月	4 いのちの花プロジェクト 「生命の尊厳」 【D 生命の尊さ】	1	殺処分された動物の生命について考えることを通して、生命の尊厳に気づき、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもとうとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 殺処分される愛玩動物の問題を通して、生命の尊さ、命の有限性、連続性などの視点から踏まえ、あらゆる命の価値について考えを深めている。 【自分ごととして考える】 自分自身が愛玩動物といかに関わるかを考えることから、命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の思いをもち、生命を敬おうとする思いを深めている。	総合的な学習
	5 卒業文集最後の二行 「いじめを許さない心」 【C 公正、公平、社会正義】	1	いじめの加害者が抱える自責の念や、被害者の気持ちについて考えることを通して、差別や偏見のない社会を実現していこうとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 クラスメイトの考えや「私」の後悔を、自分の考えと比較しながら、差別や偏見のない社会の実現について考えを深めている。 【自分ごととして考える】 現在も「私」を苛む心の葛藤を捉え、何十年たっても傷が癒えないこと、それはT子さんのほうがより深刻であることを理解し、いじめについて自らの経験と重ねて考えを深めている。	
	6 あなたは顔で差別をしますか 「互いの個性や立場の尊重」 【B 相互理解、寛容】	1	藤井さんの体験について考えることを通して、それぞれの個性や立場を尊重し、寛容な心をもって相互に理解し、謙虚に他に学び、自らを高めていこうとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 相互理解や寛容の心が、差別や偏見のない社会を築くために大切なことだと考える藤井さんの生き方から、差別や偏見をなくすために必要な「知ることの大切さ」などを様々な視点から考えている。 【自分ごととして考える】 差別や偏見のない社会を築くためには、相互理解や寛容の精神が大切だということを、自らの経験を振り返って深く考えている。	社会
6月	7 昨日より今日、今日よりも明日 「新しいものを生み出すのに大切な心とは」 【A 真理の探究、創造】	1	岸田周三さんの料理を創造する態度を通して、真理を探究して新しいものを生み出し続けるのに大切なことを多面的・多角的に深く考え、粘り強く探究していこうとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 岸田氏がバルボ氏から学んだことを、多面的・多角的に捉え、それぞれの学びの関係性について考え、岸田氏に与えた影響や、岸田氏の成長について思いをめぐらせ深く考えている。 【自分ごととして考える】 岸田氏の料理を創造する姿勢を通して、生徒自身の心に響いたことを考え、その理由に自らの経験や生き方が関係していることを自覚し、それを言語化することで、道徳的価値の理解を深めている。	技術・家庭、特別活動
	8 昇き縄 「地域社会の一員として」 【C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】	1	「僕」が抱く博多祇園山笠への思いについて考えることを通して、郷土の伝統や地域社会の一員としての自覚の大切さに気づき、郷土を愛し、すすんで郷土の発展に努めようとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 郷土の伝統や文化のよさについて、多面的・多角的に考え、自分たちの地域の伝統や文化への関わり方をそれぞれの立場で考え、多様な関わり方があることを学び合っている。 【自分ごととして考える】 地域社会と自分との関わりの中で、郷土や伝統文化の大切さについて考え、自分が関わっている地域の伝統や文化についての思いを振り返り深めている。	社会、総合的な学習
	9 父のひと言 「責任を全うする」 【A 自主、自律、自由と責任】	1	父が筆者に発した言葉の意味を考えることを通して、責任をもつことの大切さを自覚し、自分の責任を全うしようとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 責任をもつことの大切さについて、様々な道徳的価値とのつながりを踏まえながら考えを深めている。 【自分ごととして考える】 責任をもつことの大切さについて、自分との関わりの中で考えを深めている。	総合的な学習
	10 無限の道 「芸から学んだ人生」 【C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】	1	より高い芸を追求する筆者の悩みや葛藤を考える活動を通し、日本の伝統文化を継承・発展させていくことの厳しさを理解するとともに、日本人として日本の伝統文化を大切にしようとする意欲を育てる。	【多面的・多角的に考える】 他の人の考えや筆者の生き方を自分の考えと比較しながら、伝統文化を大切に継承していく生き方の苦しさや大切さについて深めている。 【自分ごととして考える】 筆者の葛藤を共感的に捉えながら、今後の伝統文化をどのように見ていこうとするのかを自分の言葉で表現している。	国語
7月	11 テーブルの卵焼き 「家族の絆」 【C 家族愛、家庭生活の充実】	1	大野さんの歌から自分と母親との関係を見つめ直す春菜の姿を通して、父母や祖父母に対する敬愛の念を深め、家族を大切にしようとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 自分と家族とのよりよい関係について、春菜の思いや大野さんのメッセージ、クラスメイトの考えなどから考えを深めている。 【自分ごととして考える】 家族を大切にして生活することについて、春菜の心情を共感的に捉え、自らの経験と重ねて考えを深めている。	技術・家庭、特別活動
	12 歩きスマホをどうするか 「調和と安全」 【A 節度、節制】	1	歩きスマホの危険性やスマホ使用者の意識を考えることを通して、スマートフォンとの望ましいつき合い方を考え、節度と節制を心がけ、安全に配慮した生活を送ろうとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 歩きスマホの問題の本質は何かを考え、スマホの特性やマナーとの違いを考えながら、他者への影響や行為の結果を予測し、安全で調和のある生活を送る必要性について考えを深めている。 【自分ごととして考える】 歩きスマホを例に、望ましい生活習慣について自分なりに考え、自分自身の生活習慣と関連づけて安全で調和のある生活を送ることの意味を考えている。	技術・家庭
9月	13 二通の手紙 「法やきまりの意義」 【C 遵法精神、公徳心】	1	規律ある安定した社会の実現を目指し、きまりや法の意義について深く考え、主体的に守ろうとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 きまりや法の意義について、話し合いを通して考えを深めている。 【自分ごととして考える】 元さんの言動を踏まえ、遵法について自らの経験と重ねて考えを深め、自分の言葉でまとめ、記述している。	社会、特別活動
	14 償い 「人間としての誇り」 【D よりよく生きる喜び】	1	加害者、被害者双方の悩み、苦しみ、良心を見つめる主人公の心情を考える活動を通し、人間には弱さや醜さもあるが、それを克服し気高く生きようとする心があることを理解し、人間としてよりよく生きていこうとする意欲を育てる。	【多面的・多角的に考える】 罪と正面から向き合い贖罪のために生き続けるゆうちゃん、理不尽に愛する人を奪われてなお、許しを与えた奥さん、それぞれの生き方の気高さを理解している。 【自分ごととして考える】 ゆうちゃんの誠実な生き方と、それによって時間をかけて心が変わっていく奥さん。二人の人間としてのあり方に、そういう人に自分もなりたいたい心が動かされている。	音楽
	15 美佐の進路 「理想の友情とは」 【B 友情、信頼】	1	進路選択に悩む美佐と、由紀、雅司3人のやりとりを通して、高め合う友情を築くために大切なことについて考えを深めている。	【多面的・多角的に考える】 美佐の進路選択の可能性を多面的に検討し、悩む美佐に寄り添う親友の心情を捉え、高め合う友情を築くために大切なことについて考えを深めている。 【自分ごととして考える】 進路選択に悩む美佐の気持ちを共感的に捉え、お互いを高め合える友情のよさに気づき、理想の友達関係を築こうとする意欲を高めている。	特別活動
10月	16 平和をつなぐ 「つながり合って生きる」 【C 社会参画、公共の精神】	1	平和活動を持続可能なものにしていくための努力について考え議論することを通して、平和な社会づくりに参画することについての考えを深め、日々の生活をよりよくしていこうとする実践意欲と態度を養う。	【多面的・多角的に考える】 他の人と意見交流することを通して、平和な社会づくりに参画し、連帯することについての考えを深めている。 【自分ごととして考える】 平和な社会づくりに参画し、連帯することの大切さと難しさについて考えを深め、今後の日々の生活をよりよくしていこうとしている。	社会、総合的な学習

月	教材名 「主題名」 【内容項目】	配 当 時 数	ねらい	評価のポイント	他教科・特別活動 などの関連
10月 ④	17 変わりゆく地球 「未来地球とともに」 【D 自然愛護】	1	自然や地球のかけがえのなさに気づき、感じたことを伝え合う活動を通じて、自分の取り組みに新たな価値づけをしたり、クラスメイトの活動に学んだりしながら、自然愛護のためにできることを謙虚に継続していかうとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 意見を交流させる中で自分とは異なる視点や価値観に出会い、そうした考えをしっかりと受け止めて、地球環境問題についての理解を深めている。 【自分ごととして考える】 地球環境問題と自分とのつながりについて、クラスメイトの考えも参考にしながら具体的に捉え、地球とともに生きるために何をしようと思うか、考えを深めている。	社会、理科、総合的な学習
	18 校長先生の模擬面接 「礼儀の意義」 【B 礼儀】	1	校長先生との模擬面接での愛花のとまどいを通して、時と場に応じた適切な言動について考え、形の根底にある礼儀の意義を理解し、他者に主体的に関わっていくための判断力を育てる。	【多面的・多角的に考える】 ルール、マナー、エチケットの相違点と共通点を話し合い、時と場に応じた礼儀の大切さについて、考えを広げている。 【自分ごととして考える】 時と場に応じた適切な言動について、自らの経験と重ねて考えを深めている。	国語、特別活動
	19 カーテンの向こう 「よりよく生きる」 【D よりよく生きる喜び】	1	ヤコブのとった行動について考えることを通して、人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、誇りある生き方をしようとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 ヤコブの行動について様々な意見聞き、誇りをもてる生き方について自分自身の考えを深めている。 【自分ごととして考える】 ヤコブの生き方を捉え直して「私」の行動を考える中から、自分自身の誇りをもてる生き方について考えている。	
11月 ④	20 専門家であること 「ともに働く」 【C 勤労】	1	看護師である父の、仕事への取り組み方について考えることを通して、個々の役割を果たすことが社会を支えることに気づき、勤労を通して社会に貢献しようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 本教材を通して考え合う中で、自他の職場体験学習を、改めてこれまでと違う視点で見つめ直し、過去の一面的な勤労観を脱して、多面的・多角的に考えている。 【自分ごととして考える】 本教材で描かれた場面を参考に、専門性の具体像をつかんでいる。また、そのことが自分の将来とのつながりを考える機会として捉えられている。	特別活動
	21 若者議会 「みんなの一員、社会の一員」 【C 社会参画、公共の精神】	1	若者議会の活動について知ることを通して、特別活動を社会参画の観点から見直し、社会参画や社会連帯についての考えを深め、すすんで社会と関わり積極的な生き方を模索しようとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 学校外の活動だけでなく、身近な委員会活動なども、社会参画の一つのかたちであることに気づいている。 【自分ごととして考える】 社会参画を、生徒会活動や学校行事、学級での自分の役割や係活動に置きかえて考え、積極的に参加することの大切さに気づいている。	社会
	22 ひび割れ壺 「自分らしい生き方」 【A 向上心、個性の伸長】	1	ひび割れ壺と水くみ人とのやりとりから、自分の個性を生かして自分らしくよりよく生きるためにはどんなことが大切なのかを考え、実践しようとする意欲を育てる。	【多面的・多角的に考える】 自他の短所や欠点をリフレーミングする活動を通して、「自分らしさ」を見つめ直し、自分らしく生きることについて考えを深めている。 【自分ごととして考える】 自分らしく生きるために大切にすべきことについて、ひび割れ壺の悩み気持ちを共感的に捉え、自らの経験と重ねて考えを深めている。	
	23 あふれる愛 「世界平和と人類の発展」 【C 国際理解、国際貢献】	1	マザー＝テレサの生き方を通して話し合うことで、人間の存在や価値についての理解を深め、国際的な視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献しようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 他の人の意見を共感しながら聞き、他の人の意見と自分の意見を比較して、自分の意見との違いを理解しながら、マザー＝テレサの生き方から学んだことを広げ、深めている。 【自分ごととして考える】 マザー＝テレサの生き方から学んだことを、自分の今後のあり方や行いに結びつけて考えを深めている。	社会
12月 ④	24 抗議する選手たち 「差別や偏見を許さない心」 【C 公正、公平、社会正義】	1	人種差別に抗議する選手たちの行動から「意識する自分」になりたいと思うようになった主人公の心の変化を考える活動を通して、自ら積極的に正しい行動を実践することの大切さに気づかせ、公正・公平にふるまおうとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 話し合いの中で、他の人の意見と自分の考えを比較しながら、自分の考えをより深めようとしている。 【自分ごととして考える】 教材を通して、日常生活での「正しいとわかっていても行動に移せない経験」を想起し、その原因と改善の方向性を探ろうとしている。	社会
	25 サルも人も愛した写真家 「自然との共存」 【D 自然愛護】	1	野生動物と人間の共存についての葛藤を通して、自然と人間、自己との関わりについて考えを深め、自然との調和の中で生かされていることを自覚し、共存していかうとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 自分たちの生活を守ること野生動物の命を守ること大切であるということについて、松岡さんの心情を理解し、村人たちの背景も踏まえて考えを深めている。 【自分ごととして考える】 サルを愛し、自然との共存を願っている松岡さんの葛藤を共感的に捉え、自分だったらどうするかという視点で考えを深めている。	理科、総合的な学習
	26 家族の思いと意思表示カード 「かけがえのない生命の尊重」 【D 生命の尊さ】	1	意思表示カードに記された姉の思いと、家族の思いを通して、生命をどのように大切にするかを考え、かけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 自分とは異なる人の意見に耳を傾け、その理由を理解することで、自分の死生観を問い直し、生命の尊さについての考えを深めている。 【自分ごととして考える】 自分だったら意思表示カードにどんな意思を示すかを考えることから、かけがえのない生命への思いを深めている。	社会
1月 ④	27 片足のアルペンスキーヤー・三澤拓 「目標に向かう強い意志」 【A 希望と勇気、克己と強い意志】	1	夢に挑戦し続けている三澤さんの生き方から、その原動力となっているものについて考え、目標を実現するために希望と勇気をもって実行し、困難に屈せず粘り強くやり抜こうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 夢の実現に向けて挑戦し続ける三澤さんの原動力となっているものについて、意見交流や話し合いを通して多面的・多角的に考えている。 【自分ごととして考える】 自分の夢や目標を実現するために、これから取り組みたいことについて考えを深めている。	保健体育
	28 足袋の季節 「思いやりの心、人間愛」 【B 思いやり、感謝】	1	おばあさんの思いやりに感謝し、自分の弱さを見つめ、たくましく生きる「私」の生き方を通して、多くの人々の善意により今の自分があることに気づき、思いやりあふれる人間愛の精神を深めようとする態度を育む。	【多面的・多角的に考える】 「思いやり」について、その場で目に見えるものだけでなく様々なかたちの思いやりがあること、人は「思いやり」で支えられて生きていることなどを、多面的・多角的に考えている。 【自分ごととして考える】 「私」の葛藤を共感的に捉え、自らの経験と重ねて考えを深めている。	
	29 旅立ちの日に 「集団の一員として」 【C よりよい学校生活、集団生活の充実】	1	卒業式に臨む姿勢を考えることを通して、自分たちの学校を改めて見つめ直し、学校の一員として自分にできることは何かを考えようとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 卒業式に関係する様々な人の立場に立って考えることで、3年生として卒業式にどのように臨むとよいか、考えを深めている。 【自分ごととして考える】 卒業式は、誰のために、なんのためにあるのかについて、「僕」の葛藤を共感的に捉え、自らの経験と重ねて考えている。	特別活動
2月 ④	30 もう一つの時間 「自然と自己との関わり」 【D 感動、畏敬の念】	1	筆者が自然と向き合う中で考えたことを通して、人間の力を超えたものに美しさや気高さを感じ、自然の中で生かされていることを自覚し、そのことに特別な喜びを感じる心を育み、自己のあり方や生き方を深めようとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 人間と自然、自分と自然との関わりについて筆者やクラスメイトの考えを共感的に捉え、多面的・多角的に考えを深めている。【自分ごととして考える】 悠久の自然を人間の力が及ばない存在として認識し、人間としてどう生きるかについて、自らの感覚や経験と重ねて考えを深めている。	国語
	31 駐車場係として 「自分にできること」 【A 自主、自律、自由と責任】	1	自分の役割を放棄して試合を見に行こうとした「僕」の心情と行動の是非を話し合うことを通して、自分の役割を忠実に果たすことの大切さに気づき、責任ある行動をとるための判断力を育てる。	【多面的・多角的に考える】 自分の役割を誠実に果たすことの大切さについて、今自分がおかれている状況や他者への影響という視点から考えを深めている。 【自分ごととして考える】 自分の役割を誠実に果たすことについて、「僕」の葛藤を共感的に捉えながら、自らの経験と重ねて納得解を導き出している。	特別活動
	32 憧れの消防団 「社会連帯の自覚」 【C 社会参画、公共の精神】	1	「僕」と消防団との交流を通して、社会連帯の意義と価値についての理解を深め、社会をよりよくするために主体的に関わっていくこととする実践意欲を育てる。	【多面的・多角的に考える】 社会連帯の意義や価値について、様々な立場や場面から多面的・多角的に考えを深めている。 【自分ごととして考える】 「僕」の心情を共感的に捉え、自分の体験と重ね合わせ、社会をよりよくするために自分なりの関わり方を見つけようと考えを深めている。	社会、総合的な学習
	33 世界に誇る「BONSAI」 「日本の伝統・文化の継承」 【C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】	1	盆栽師・加藤三郎の思いを考えることを通して、わが国の伝統や文化を継承していくことの重要性に気づき、自国の文化を尊重しようとする態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 盆栽を守り広げてきた先人の思いを捉え、時代の推移の中で伝統文化のよさについて考えを深めている。 【自分ごととして考える】 興味をもって教材に向かい、日本の伝統や文化のよさや、自分がこれからどう向き合っていくかについて考えを深めている。	総合的な学習
3月 ②	34 琵琶湖とともに 「環境を守る」 【D 自然愛護】	1	汚染された琵琶湖をよみがえらせるために県民一人一人が果たした役割の大きさに気づき、環境を守るためにできることをしていきたいという実践意欲を養う。	【多面的・多角的に考える】 自然環境を守るためには、一人一人の意識の高さや行動だけでなく、県などの自治体との協働も大切であることに気づき、目の前の環境問題だけでなく、持続可能な活動にしていこうとする必要性について考えている。 【自分ごととして考える】 滋賀県の取り組み（MLGs）を、地域の環境問題を見直すヒントにして、自分にできることから始めようとする意識が芽生えている。	社会、理科
	35 カムイモシリと アイヌモシリ 「自然への畏敬」 【D 感動、畏敬の念】	1	アイヌ民族における自然との関わり方について考え議論することを通して、自然の中で生きることへの考えを深め、自然への畏敬の念をもちながら自然と共存していかうとする実践意欲と態度を養う。	【多面的・多角的に考える】 自然と人間の関係や自然とともに生きるための態度について、アイヌの人々の自然観と生き方を理解し、他の人の多様な意見と交流しながら考えを深めている。 【自分ごととして考える】 自然への畏敬の念をもって共存していくために大切にすべきことについて、自らの生活や将来の社会的活動に生かせるように、考えを深めている。	社会